

生き方・いろいろ・ゆたかな人生



94
2015 Aug.

まなこ



特集

男の地域デビュー



- ◎人生の新たな役割を見つけましょう……………P2
- ◎インタビュー シニアに聞いてみた!……………P4
- ◎男女共同参画週間事業トークイベント・講演会……………P7
トークイベント: 坂根 シルクさん「フィンランドに学ぶ子育てと仕事の両立のヒント」
 講演会: 東 小野さん「多様な性を理解する 2015」

特集 男の地域デビュー

仕事で培った知識や経験は、退職後も地域で活かすことができます。「まなこ」を通して、社会とのつながりや新たな生きがいを見つけ、地域への新たな一歩、「地域デビュー」を試してみませんか。

人生の新たな役割を見つけましょう

定年退職後の男性は、どのように第二の人生を送っているのでしょうか。さまざまな選択肢があるなか、シニア世代の地域参加をサポートしている南部裕史さんにお話を伺いました。

——定年退職後の男性はどのように過ごしているのでしょうか

家庭を中心に考え、そこをベースに趣味や学び、元同僚と遊ぶといったようなかたちが大半でしょうか。これは、今まで家庭のことを何もしてこなかったの、これからは家庭に対して、特に妻に対して孝行しないと、という夫の思いからで、そのためには家に居ていろいろ手伝いをする、妻が喜ぶと思っているのです。しかし、これはほとんど間違いです。妻からするとありがたい反面、長年家庭内で培った自分のベースを乱してほしくないという思いが強く、夫が家にいて外に出ないので、妻も出られなくなって困っているという状況が生まれているのです。そこから、男性の引きこもりや高齢者うつとさまざまな問題が派生しています。やはり、もっと外に目を向けるべきではないかと思うのですが、男性は地域で

何かをするということがどうも苦手なようです。

——なぜ男性は地域社会への参加が苦手なのでしょうか

私は「リタイア後の人生をリフレッシュする講座」というものを開催しています。これは定年退職後の人に向け、年金、介護、相続などをテーマにした講座なのですが、そのテーマを学ぶということが本目的ではなく、それをきっかけとしてお互い同じ悩みをかかえる人が話し合いながら、気の合う人を探して仲間をつくり、居場所づくりができればというのが狙いです。半年かけてゆっくり仲間をつくってもらおうと仕掛けをしているのですが、おもしろいのは、女性は会ったその日から友達をつくって、講座終了後、ご飯と一緒に食べて帰るといった人が多いです。一方男性は、打ち解けるのにかなり時間がかかります。さらに

講座の感想アンケートなどを見ても、女性は「いろいろな話せて楽しかった」「おもしろかった」というのに対して、男性は「もっといろんなことを知れたかった」と書いてきます。人づきあいや講座の内容に目が向いているのです。

この反応の差はどこからくるのか考えたのですが、女性は相手そのものを見てつきあうという横社会のコミュニケーションがうまいのです。それに対して、男性は長い間仕事人生の中において縦社会のコミュニケーションが身についているのです。つまり、相手に対して自分よりも上か下か、立場で考えてしまつのです。

——なるほど、では具体的に地域社会への参加をスムーズにするにはどうすればいいのでしょうか

ひと言でいえば、価値観のリセットです。当然のことですが、地域社会にはさ

さまざまな価値観をもった人がいます。そこは、年齢や経歴など関係なく、その人の行動や考え方に対してどうかという社会なのです。そのような多様な価値観を受け入れられるかということなのです。実際に地域社会で何かをしようとした時に大事なことで、会社時代の話をしない、口調が命令調にならない、新入社員になった気分であいさつをする、周囲を認める、自分から動く、などがあげられます。

——退職後の男性が地域で活動することによって生まれる社会的効用はありますか

私は中小企業診断士をしているのですが、今、少子化の影響で中小企業は若手の人材不足です。それをどうやって埋めるかということで、シニア採用の意欲がとても強いのです。地域で頑張っている町工場の現場指導などはとても戦力になると思います。また、パソコンが得意な人はパソコン教室を開くなど、自分が持っているノウハウを人に教えるということもいでしょう。これまで積んできた経験をフィードバックし、地域社会の中で活かす方法はいくつもあるのです。そして自分の行動によって喜ばれ、感謝されるという瞬間が必ずあると思います。

私は、地域社会がかかえるさまざまな問題は、地域社会の中で解決しなければならぬと考えています。その地域課題

を解決するために、行政や我々のような団体がどうサポートしていくかという、ビジネスモデルづくりに取り組んでいるのですが、その中心になるのは定年退職後のシニア世代だと考えています。以上のようなことから、少し大げさですが、「地域社会はあなたを必要としています。人生の新たな役割を見つけてください」と言いたいですね。

——他にも何かありますか

そうですね、妻のストレスがなくなる(笑)。最初にも述べたように、夫が外に出ることによって妻も出やすくなる、社会で活躍する機会が増え、女性の社会進出を促進することにもなります。また、男性の自宅引きこもり問題を解消することにもつながります。そして何よりも期待できるのは、高齢者の孤立化、孤独死の防止につながるのだと思います。人は必ず最後は一人になります。こういうときにどこかに居場所があると安心だし、心強いですね。まあこれは都市部の問題ですが。

——最後に、これから定年退職を迎える世代の方にメッセージをお願いします

定年退職後にいきなりリセットしろといつてもなかなか難しいものです。在職中の今から準備することが大切。そのためまず仕事のオンとオフのスイッチを切り替える練習をしてください。仕事が

地域への一歩リスト

市内のイベントや事業に参加して、「地域デビュー」してみませんか!

まずは、市のさまざまな情報を掲載している『市報むさしの』(毎月1日と15日発行)や市HPをご覧ください。下記に、市報等で紹介している事業の一部を抜粋しました。

◎武蔵野プレイス (TEL 0422-30-1905)

図書館、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援を行っています。

◎ボランティアセンター武蔵野 (TEL 0422-23-1170)

団体・個人・施設などからの依頼を元に、ボランティア活動を行いたい方に活動先を紹介しています。

◎コミュニティセンター(市民活動推進課) (TEL 0422-60-1830)

市民が自由に利用できる多目的施設です。主にグループ活動の場として利用され、親しまれています。コミュニティ協議会(地域住民のみなさん)が、施設の管理やイベント等の企画・運営を行っています。

◎武蔵野市民社会福祉協議会(市民社協) (TEL 0422-23-0701)

地域住民の福祉活動の支援、子ども・高齢者・障がい者・経済的にお困りの方への各種サービスや情報提供などを行っています。

・老人クラブ(29のクラブが各地域ごとに活動をしています)

市内のおおむね60歳以上の方を対象に、健康活動、趣味活動、奉仕活動などを行っています。

・地域福祉活動推進協議会(地域社協、福祉の会)

おおむね小学校区を単位として「地域のつながりづくり」を目的としたサロンや見守り活動、福祉・健康・防災・防犯に関する講演会の開催などを行っています。

地域デビューの心得

- ◆年齢や経歴などにこだわらない
- ◆会社時代の話をしない
- ◆命令口調にならない
- ◆新入社員になった気分であいさつをする
- ◆多様な価値観を受け入れる
- ◆周囲を認める
- ◆自分から動く



なんぶひろし 南部裕史さん

企業向け人事労務コンサルタント会社代表取締役、中小企業診断士・社会保険労務士。2013年にNPO法人地域彩生オーラムを発足させ代表に就任。地域活性化を目的として、会社をリタイアしたシニアの人々が地域で仲間づくりを促進させるための取り組みから、生涯現役を目指すシニア世代に向け創業支援まで幅広く活躍している。 <http://www.fodor-i-forum.com/>

シニアに聞いてみた！
市内在住の地域デビューしたシニア世代たちにお話を伺いました。



健康的で感謝される毎日 体が元気なうちは続けたい

植木講習会を受講後にシルバー人材センターで植木班に登録し、腕ふるっている神忠義さんに、忙しくも充実した毎日についてお話をいただきました。



さかき ただよし
神忠義さん (72歳)
吉祥寺本町在住
公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
植木班

私は65歳の3月末まで会社勤めをしていました。退職してすぐの頃、市報で無料の植木剪定講習会の募集案内を目にしました。最初は我が家の庭木の剪定に活かそうと申し込みました。そして1カ月間に15回、座学と実習の研修をみっちり受けたところ、終了後にシルバー人材センターへの入会を呼びかけられ、植木班に入りました。そして翌月から仕事をしようになりました。

市内を7つの地域に分けて活動しています。武蔵野市内の家庭の庭木の剪定を行っており、忙しいのは夏前と秋、年末で、1カ月に20日も仕事をし、月で時間を超えたこともありましたが、「植木はセンスだ」と、講習会の際に先生が言っておられました。やればやるほど自分の味が出てくるもので、面白く感じています。

植木班は外での作業なので、暑さ寒さは身にこたえます。はしこに上がっ

て作業するとき、風が強い日におっかない思いもしました。でも、グループの仲間はいい人ばかりですし、また仕事を頼んでくれたお客さんが「きれいになってうれしい」と喜んでくれた時は、こちらもうれしい瞬間です。妻にも「いつも楽しそうね」と言われています。

退職後、家でゴロゴロしているとお腹が出てくるでしょうか？ 植木班で働いて、規則的で健康的な生活を送り、さらに配分金を得て孫にお小遣いを渡せる…….こんないいことはないです。自分も植木については素人でしたが、講習会で学び、仲間から教えてもらい、植木が好きだから続けられている。体がどこまで持つかわかりませんが、80歳の植木班の定年まで続けられたら幸せだと思っています。

市内で定年後の居場所づくりをしませんか？

お父さんたちの、定年後の地域を通じた豊かな暮らし方を提案している事業「お父さんお帰りのなさいパーティ」の実行委員長の後藤誠一さんにお話を伺いました。



ごとう せいいち
後藤誠一さん (65歳)
吉祥寺北町在住
お父さんお帰りのなさいパーティ
実行委員長
ボランティアセンター武蔵野運営委員

武蔵野市では、定年を迎える人が毎年1000人以上もいると言われています。その中には、「これから毎日、何をして過ごそう？」と、悩んでいる人もいるのではないのでしょうか。

年齢があがっていくにつれ、私たちの生活範囲は徐々に狭まっていきます。ですから、定年後に地域の人たちと交流があることは、とても重要なことだと感じています。地域とのつながりが、健康や生きがい、認知症予防にもつながっていきます。

ただ、定年を迎えてから、それまで意識を向けていなかった地域にいきなり働きかけるのは少しハードルが高い

かもしれません。そんな時は、地域のイベントやお父さん向けの講座に参加するのが一番です。私たちの活動では、趣味や勉強などの活動を通じて、人脈づくりや地域の中での居場所づくりを目指しています。

こうした活動には、本来は定年前から顔を出し始めるのが理想的です。私自身も定年の数年前に「リタイア後の生活を快調にスタートさせるには、打ち込める趣味や参加できる活動を地域で見つけておくことが大切」と知り合いに言われ、当時はやりたいたいこともなく、地域のことも知らず、どうしようと思っただけがありました。そんな時、市報で同活動のことを知り、「何かのきっかけになるかもしれない」と考え、参加し始めました。

あまり期待せずに参加した講座でも、新しい刺激をもらえたり、楽しむことができ、結果として定年後もスムーズに地域に溶け込むことができました。それまでは地域に知り合いはほとんどいませんでしたが、今では外に出る度に誰かに声をかけてもらい、出かける楽しみも増えました。ぜひ、サロンやパーティに積極的に参加していただき、新たな人生の楽しみ方を見つけてもらえたらと思います。[取材：文 詩水淳子]

【お父さんお帰りのなさいパーティ】
主催：(社福)武蔵野市民社会福祉協議会／ボランティアセンター武蔵野／お父さんお帰りのなさいパーティ実行委員会
後援：武蔵野市 連絡先：0422-23-1170
活動内容：メイン行事の「お父さんお帰りのなさいパーティ」は毎年6月開催。その他、「お父さんお帰りのなさいミニパーティ」(愛称ミニおとほ)や「お父さんお帰りのなさいサロン」(愛称おとほサロン 毎月第2土曜)を開催。女性の方も歓迎。
詳しくはHPまで <http://www.shakyou.or.jp/>
おとほサロンの活動内容
カメラ講座／川柳を読む／美味しいコーヒーのいれ方／男の生け花／ぶらり歩こう会／認知症サポーター養成講座／災害時の知恵／補聴器の話／吉祥寺の美術館を知る／紅茶の歴史とアフタヌーンティ／わたしにもできる？ ボランティア etc...

同世代だけよりも 異世代に囲まれてるほうが居心地いい

現在、町会やコミュニティセンター(以下「コミセン」)などで積極的に地域活動している狩野耕一郎さんに、地域デビューの秘訣やご家族の反応などを伺いました。



かのう こういちろう
狩野耕一郎さん (69歳)
緑町在住
緑町三丁目町会常任幹事
緑町コミセン運営委員
廃棄物に関する市民会議委員 他

前職は研究職で、製薬会社で医薬品の品質管理や新薬の開発、臨床試験の監査に携わっていました。地域参加のきっかけは、在職中子どもと一緒に町会イベントに参加し、何度か参加しているうちに町内会長から声をかけられたのが始まりです。その後、毎年のように熱心に勧められ、い先輩方に恵まれ、徐々に参加するようになりまし。主な町会活動として、秋季大祭、町内一斉清掃、新年ふれあいの集いなどの企画・運営を担当し、町会活動を通じて「コミセン活動や地域防災活動にかかわるようになりまし

た。地域活動を重ねるにつれて、地域に知り合いが増え、横のつながりもできました。また、イベントに参加してもえらる必要がたさも毎回実感し、「みんなから必要とされている喜び」も感じています。幸いにも、家族は自分の活動を理解・後押ししてくれています。妻も今春まで働いていて、お互い顔を合わせる機会が少なくても「自分の好きなことを自由にさせてくれるうちの妻はすごい」と日々感謝しています。

活動の難しさはイベントに直接かわつてくれる人が少ないことです。若男女問わず、その傾向があるようです。若い人にもイベント参加だけではなく、小さなことでも良いので力を貸してほしいです。イベントに参加しても運営側に回るのは躊躇されるので、みんなに携わってもらえるよう、粘り強く誘うことが大事です。たとえば、子どもをターゲットにしたイベントを企画し、それに親も巻き込んで参加してもらおう図式を画策したりします。

人によるとはありますが、私は同世代だけの集まりよりも異世代に囲まれてるほうが、いろいろ刺激や影響を受け、居心地いいのです。ボランティアですが、子どもから高齢者まで幅広く交流できるこの活動が自分には合っています。みんなと喜びを共有し、自分の住んでいる地域を良くするため、よい良いものができるといいいなあと常々思っています。

やりたいことを突きつめたり 得意分野を地域に活かそう

趣味のかたわら、補習教室講師などセカンドライフにおける自己実現を目指し、さまざまな活動に挑戦している田岸直行さんにお話を伺いました。



たがし なおゆき
田岸直行さん (72歳)
吉祥寺南町在住
公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
補習教室吉祥寺教室講師
環境美化推進員 他

65歳まで建築設計の仕事をしてきました。退職する1年前から、残る人生をどう生きようか、自分が本当にやりたいことは何かとじっくり考えました。退職してからは自分がやりたかったことを突きつめよう、また「こうあってほしい」と思うことは自ら率先してやろうと決めました。そこで、もともと教えることが得意で好きだったこともあって、シルバー人材センターに入会し「補習教室班」へ応募しました。

武蔵野市のシルバー人材センターは、学校の授業をベースにしっかりと基礎学力を養うことを目的とした補習教室を市内の3カ所で開講しています。私は吉祥寺教室開設と同時に登録し、以来7年間教え続けています。やりがいを感じるのは、子どもたちの笑

顔と反応です。今は小学6年生に国語と算数を、中学3年生に数学を教えています。ただ、予習や問題作りに手間がかかるので、毎年「この子が卒業したら、自分も辞めよう」と思うのですが、春に新しい子が入ってくると「よし、頑張るか」と続けているという状況です。

私が受け持っているのは週3回で、授業時間は小学生が1回80分、中学生は90分です。配分金はそれほど高くはありません。しかし、自分が望んだことなので納得しています。配分金は、趣味で毎日続けている『万葉集』解釈で使う参考書やノート代に充てています。ほかにも環境美化推進員の南町支部に属して街の清掃作業に参加をしたり、「ふれあい訪問収集」では、ごみ出しが困難な高齢者の家庭に行き、ごみ出しの補助をするなど市のごみ総合対策課と連携をしています。退職前の自分と比べて、今の自分は身の丈に合ったことをして、日々を丁寧に生きていくと実感しています。[取材：文 友野その子]



シルバー人材センター説明会の様子

元気な高齢者。パワーを求めています！

市内で現在1000人以上が登録中のシルバー人材センター。事務局の山中洋次さんと平野秀実さんに、入会方法や必要な費用、活用方法などについて教えてもらいました。

シルバー人材センターは、健康で働く意欲のある高齢者の皆さんの「生きがいづくり・健康維持・社会参加」を支援するために誕生した組織です。高齢者が、住んでいる地域で働くことを通して、活力ある高齢社会・地域社会をつくり、生きがいのある生活ができることを目指しています。

武蔵野市シルバー人材センターでは現在、1169人の方が会員登録（平成27年3月末現在）しています。男女構成比は男性68人・女性48人で、これは他の自治体に比べて女性比率が高いです。女性の比率が高いのは、家事援助、小物製作に、他のセンターに先駆けて取り組んできたからです。会員の平均年齢は73歳となっています。

入会できるのは60歳以上で、仕事は臨時的・短期的・軽易なもので、1人が1週間に20時間を超えないことが原則です。入会はず、センターで開催される説明会に参加していただき、説明を聞き、接遇の基本的な研修を受けた上で、年会費2000円をお支払いいただき、入会手続きをします。入会後は、毎月2回「適正就業ニュース」



公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
やまなか ようじ
事務局長 山中洋次さん(左)
ひらの ひでみ
次長 平野秀実さん(右)

というお知らせを各地区の班長さんが自宅へ配っています。そのなかから自分で選んで申し込んでもらう形となっています。ニュースに載って実際に需要が多いのは、除草、清掃などのように外で体を使う仕事です。

しかし、武蔵野市は場所柄か前職がホワイトカラーの方が多く、事務職希望者が多いですね。このミスマッチが課題です。

仕事が完了した後に、配分金が支払われます。仕事量や内容により金額は様々で、少ない方で月数百円、多い方で10万円弱を得ています。

昨今、政府は女性の活躍促進をうたっていますが、高齢者の力も大いに期待されています。説明会は毎月開催していますので市報を確認してください。皆様の登録をお待ちしております！

シルバー人材センターの主な仕事

広報紙配付、学校施設管理、緑化、浄水場清掃、水道部清掃、学校開放施設清掃、家事援助、植木、ふすま張替え、除草、補習教室、リサイクル品販売 など

●武蔵野市シルバー人材センター
中町3-5-16
TEL: 0422-55-1231
http://www.musashino-sc.or.jp/
入会説明会の日程は「市報むさしの」毎月1日号をご覧ください



男女共同参画フォーラム 2015が開催されました

6月23日から始まった「男女共同参画週間」に合わせ、市民や各団体が構成する実行委員会とともに、「育てあいまち 武蔵野」をテーマに男女共同参画フォーラム2015を開催しました。ここでは2つの講演会を紹介します。

トークイベント

フィンランドに学ぶ子育てと仕事の両立のヒント

さかね
坂根 シルックさん
東京農工大学特任准教授



「世界一ママに優しい国」*1に選ばれているフィンランド。共働き事情とそれを支援する国のシステム、子育てや生き方のヒントについて、坂根シルックさんがわかりやすく語ってくださいました。

フィンランドでは社会でも家庭でも「男女平等」の考え方が浸透しています。労働人口の半分は女性です。大多数の女性がフルタイムで働いており、自身のキャリアを持っています。また日本では、共働きでも母親が家事、育児全般を担い、父親は遅くまで外で働くというケースが多いようですが、フィンランドでは家事、育児は夫婦でするものであり、分担、協力してあたりまえという考えです。例えば、仕事が先に終わった方が子どもを保育園に迎えに行き、夕飯をつくるなど、家事や育児は「できる人ができることをする」のが一般的です。

共働き世帯を支えるためのシステムも数多くあります。母親は産休、育休と合わせて約11ヵ月、父親も3週間の育児休暇が取れます。育児休暇を最大3年まで延長して、家で育児をすることも可能で、復帰しても当時のポジションが保証されています。各自治体には保育を提供する義務があるため、待機児童の問題はありません。また「ネウボラ」という素晴

らしいシステムがあるのも特徴です——母子共に妊娠前から就学前までの期間、定期的にそこで検診を受けられ、保健師や助産師などから心と身体の両面からアドバイスがもらえます。さらに「母親パッケージ」*2も好評です。

子育てについては、スキンシップや家族の時間を大切にしながらも、子どもの意見や生き方を尊重します。男女問わず一人の人間として対等に扱います。兄弟間も比べません。

親もまた、自分の人生を楽しむことを大切にすることがフィンランド式です。家族で夕食を共にし、子どもたちが習い事に行っている間、親は自分の趣味に興じたり、夫婦の時間を過ごしたりします。家庭の中で母親は太陽のような存在で、母親が自分自身を大切にすれば、家庭も明るくなりますね。

[文 丸山麻帆]

*1 子ども支援専門の国際組織「セーブ・ザ・チルドレン」が、毎年「母の日」に発表しているランキング。フィンランドは2013年より3年連続第1位を獲得
*2 KELA(フィンランド社会保険庁事務所) から支給される母親手当のひとつ。ベビーケアアイテムや服、親が使用するアイテムなどが一式入っている

講演会

多様な性を理解する2015

～レズビアン・性虐待サバイバーである私～

ひがし こゆき
東 小雪さん
元タカラジェンヌ、LGBTアクティビスト



Photo: Yuko Sudo

性的少数者や同性婚、性虐待等タブー視されて語られてこなかった問題を、レズビアンである東小雪さんが体験を交え語ってくださいました。

自分が同性愛者だと気がついたのは、16歳の時です。クラスメイトの女の子から同性愛者であるとカミングアウトを受け、そこで初めて女性同士で交際することがあるんだと、そして、自分が女性に対していただいているのは恋愛感情だと気づきました。

よく「女性が好きだから、男性になりたいのですか?」という質問を受けます。私は「身体の性別」と「自分が思う性別」は女性で違和感はなく、ただ「好きになる性別」も女性だというだけなのです。また、「同性愛者は何に困っているの?」とも聞かれます。私はパートナーとお互いウエディングドレスを着て、東京ディズニーリゾート初の同性結婚式を挙げました。しかし挙式をして一緒に住んでも、法律上はルームシェアをしている「友だち同士」なのです。精子提供を受けて出産したとしても、共同で親権を持つこともできません。パートナーが生んだ子どもとは、法律上の繋がりが持つことができないのです。

思春期の頃は、同性愛者の自分を肯定できず苦しみました。パートナーと出会ってからは、自分らしく生きています。とはいえ、さまざまな不安を抱えているのも事実です。LGBT*1の人は人口の7.6%*2という調査結果がでているように、同じように性で悩んでいる人は身近にたくさんいます。だからどうか、性的少数者への理解を深め、アライ(支援者)になってほしいと思います。そして、どんな人も自分を否定しないで、自分らしく元気に生きていけると伝えたいです。

なお、講演会の後半はご自身が受けた実父からの性虐待の経験をもとに、「被害にあった人は何も悪くない」「必ず元気になることができる」という温かく力強いメッセージもいただきました。

[取材・文 名久井梨香]

*1 「LGBT」とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとったセクシュアル・マイノリティの総称。詳しくは、まなこ92号をお読みください
*2 電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT調査2015」より

BOOKS

むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書から
貸し出ししています

「団塊世代の地域デビュー」

その書名「まちごと福祉」の裏側
川村匡由著 (株式会社みらい)



本書では、団塊世代を1945～1955(昭和20～30)年にかけて生まれた世代ととらえ、彼らに対する期待と可能性や地域デビュー法、コミュニティビジネスの起業法などについて、著者の知見や実践を踏まえながら語られている。定年を迎えた多くの団塊世代がそれまでの「会社人間」から「社会人間」として地域社会に戻ってきた時に、どんな可能性が待っているのか。これから地域デビューを考えている人におすすしたい一冊である。

「まなこ」サポーターの200字コラム

男の地域デビュー

「縁の下の力持ち」になる

大久保力●境



一般的に、定年退職した高齢男性は、男性中心のサラリーマン社会にとっぷり浸かってきたため、女性が多い地域活動へ参加することに抵抗感がある。しかし、現役時代の肩書等をすべてリセットし、地域に対する愛着と前向きな意欲があれば、高齢男性の地域活動への貢献も大いに期待できる。経験で得た有用なノウハウは、きっと「縁の下の力持ち」的な効果を発揮し、健全で幸せな地域創造への原動力となるはずである。

オト」たちの登場を願っています

小西美穂子●境



産前まで8割の時間を仕事に費やしていた。熱心ではあるだろうが、狭く、硬直化した世界にいたのかも少し不安と振り返ることがある。男性も、個人の意識というよりは、社会的な構造の問題で仕事以外の時間が持てずにいるという方が多いのではないだろうか。地域で出会うのは圧倒的に女性が多いが、息子には、多様な価値観を持つ大人とふれ合いながら成長してほしいと願っています。ぜひ退職後のみならず現役男性の登場をお願いします。

子育て期からの地域参加を

中野沙織●吉祥寺北町



女性は子育て中にたくさんの方々とふれ合い、「地域へと開かれていく」。幼い息子を連れて歩いていく時、近所のご年配の方から「子育て仲間が近所の仲間にもなるから、今の子育て中の仲間を大切に」といいわよ」と声をかけていただいた。最近、男性も積極的に育児参加し、地域へ繋がっていく様子をしばしば目にする。男性も子育て期から地域とかわかり、「仲間」をもつことで、生涯にわたる地域基盤ができ、より豊かな日々になるのではないかと。

「まなこ」は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女共同参画の視点＝「まなこ」で見たい！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

平成27年度『まなこ』サポーター会議
サポーターを紹介します！（五十首順）

■大久保力(70代)境在住

武蔵野市在住40年。50年及ぶサラリーマン時代に経験した、やれば当然できる男女共同参画の利点を、地域の幸せに活かしたい。

■奥野依理子(40代)境在住

地域活動を通じ、人の出会いと繋がりが地域を育てていくと実感。男女共同参画と地域の関連性、勉強させていただくのが楽しみです！

■尾崎真弓(30代)中町在住

武蔵野市在住三年目、いろんなことにチャレンジしてみたい。その一つが「まなこ」です。「書くこととレッスン」受講が刺激になりました。小西美穂子(30代)境在住
男女共同参画。堅苦しいものでなく、その人らしく生きていくことと理解しています。本誌を通じてさまざまな方との出会いが楽しみです。

■中野沙織(30代)吉祥寺北町在住

これまでの人生や子育てを通して感じていた思いを、言葉に表現していくことを楽しみにしています。視野が広がることも信じて！



4月17日(金) 総合体育館にて

もしDVにあっているなら…
相談窓口をご案内します (相談は無料です)

●警視庁総合相談センター 03-3501-0110
(祝日・年末年始を除く月～金曜 8:30～17:15)

【配偶者暴力相談支援センター】

- 東京ウィメンズプラザ
03-5467-2455 (年末年始を除く毎日 9:00～21:00)
- 東京ウィメンズプラザ (男性のための悩み相談)
03-3400-5313 (祝日・年末年始を除く月・水曜 17:00～20:00)
- 東京都女性相談センター多摩支所
042-522-4232 (祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～16:00)
- 東京都女性相談センター
03-5261-3110 (祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～20:00)

☆夜間・緊急の場合

- 警察(事件発生時) 110番
- 東京都女性相談センター
03-5261-3911 (夜間・休日のみ)
- 武蔵野市役所 女性総合相談 専門の女性相談員が対応します。
予約制 第2木・第4火(相談時間50分) 予約専用 0422-60-1921
- 武蔵野市役所 ひとり親・女性相談
0422-60-1850 (祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～17:00)

ご存知ですか？
「むさしのヒューマン・ネットワークセンター」

むさしのヒューマン・ネットワークセンターは、武蔵野市の男女共同参画推進の拠点として、性別等にかかわらず誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目指し活動しています。男女共同参画に関する情報の提供、各種講座の開催などを行っております。また、センターの会議室やフリースペースでは登録団体の方々をはじめ広く市民の方々の自主学習会や交流などが行われています。どなたでもご利用できますのでお気軽にお越しください。

<これからのセンター主催講座予定>
9月11日(金)・18日(金)・25日(金) 10:00～12:00
「小さな子供を持つお母さんのための講座(仮)」
11月 7日(土) 14:00～16:00 「人生100年時代の自分航海術(仮)」
11月15日(日) 13:00～15:00 「モラルハラスメント(仮)」

<センター利用案内>
◆住所：武蔵野市境2-10-27 武蔵境市政センター2F
◆TEL/FAX：0422-37-3410
◆E-mail：mhnc@tokyo.email.ne.jp
◆開館時間：月～土曜日 9:30～17:00
◆休館日：日曜日・祝日・年末年始

▶講座の詳細・お申し込みは市報やセンターのホームページをご覧ください！ <http://www.mhnc.jp/>

INFORMATION 市民活動推進課 男女共同参画担当から

●男女共同参画推進団体活動補助金について

男女共同参画推進団体が男女共同参画社会の実現に向けて行った研修・調査・研究等の活動に対し、活動の活性化と市の施策の推進を目的として、経費の一部を補助しています。

補助金の交付は、1団体各年度1回、上限5万円です。申請団体が多数の際や審査結果により、交付されない場合もあります。手続きは市民活動推進課へお問い合わせください。

平成26年度6団体実施(①団体名②内容)

- *①共同参画むさしの
②ミニシンポジウム「多様な性を理解する」
- *①HBB(Happy and Boon Buddy)
②講演会「いつもキラキラ輝く自分になりたい」

- *①特定非営利活動法人カラ＝西アフリカ農村自協力会
②トークイベント「アフリカの女性の今

～ゼロからの出発

- *①まめつちよ
②講演会「子どもを育てながらそれぞれが自分らしく生きる」
- *①武蔵野ブラショフ女性問題研究会
②シンポジウム「ルーマニアでの外国会社支店で働く内・外国男女間に起きる問題は？職場環境における以前および今日のルーマニア女性」
- *①ゆう³
②講座「パパ&ママとおもちゃをつくってあそぼう！」

◎平成27年度の男女共同参画推進団体登録は21団体です。
(平成27年6月8日現在)

市民部市民活動推進課 男女共同参画担当
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
TEL 0422-60-1869 FAX 0422-51-2000
E-mail SEC-KATSUDOU@city.musashino.lg.jp
URL <http://www.city.musashino.lg.jp>

* STAFF *

サポーター 大久保力 奥野依理子 尾崎真弓
小西美穂子 中野沙織
取材・編集 詩水淳子 杉田真奈美 友野その子 名久井梨香
丸山麻帆 矢後麻美 市男女共同参画担当職員
編集協力 栗原毅
表紙・イラスト 藤原理和
デザイン 上田ジュンコ
印刷 プリンティングイン株式会社

「まなこ」は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、市内の医療機関、美理容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約450カ所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、市民活動推進課男女共同参画担当まで。

◎綴じ込み返信はがきで、ご意見やご感想をお寄せください。次号は27年12月初旬発行予定です。

今回の取材で、男性の地域デビューを応援する取り組みが多く用意されている事を知りました。男性の皆様、気軽に扉をたたいてみてください。(丸山麻帆)
「自分が必要とされている」と、いくつになっても感じる。これこそ生きるためのエネルギー。改めて実感。(矢後麻美)

Editors' Notes 編集 * 後記

「体力的なこともあり、退職後は人の行動範囲も狭まってくる」という言葉にはっとした。新たなステージに向けての準備は、できるだけ早めに始めておくとういふなあと実感した。(詩水淳子)
今回の取材は、地域デビューも年を重ねることも楽しい！と実感でき、前向きになれるワクワクする企画でした。(杉田真奈美)
趣味に地域活動にプチ稼ぎに、忙しくも充実しているリタイア族のお話を伺えました。私も幸せな老後を迎えたい！(友野その子)
あと数年で還暦を迎える父、定年退職後も活躍できる場が地域にあると知り、娘としてホッと思いました。ぜひ読ませたいです。(名久井梨香)